岡山市 男女共同参画情報誌

DUO 2016 Vol.41

「デュオ」は英語で二重唱（奏）の意味です。

寄稿

仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の実現を目指して

上岡 美保子さん（トマト銀行社外取締役）

指定都市市長会シンポジウム IN 岡山

『ワーク・ライフ・バランスの実現で地方創生へ～広げよう！働き方改革～』

岡山市市民協働局女性が輝くまちづくり推進課　岡山市男女共同参画社会推進センター「さんかく岡山」

寄稿

仕事と生活の調和 ワーク・ライフ・バランスの実現を目指して

上岡 美保子

岡山県生まれ。1973年日本貿易振興会（現日本貿易振興機構、ジェトロ）入り。岡山貿易情報センター所長、ストックホルム事務所長などを経て、2013年から就実大学特任教授。2013年6月からトマト銀行社外取締役。「日本女性会議2015倉敷」実行委員長を務める。

1. はじめに

私は2008年から2011年まで、ジェトロ（日本貿易振興機構）・ストックホルム事務所所長としてスウェーデンに滞在していました。日本企業の国際ビジネス支援や調査、スウェーデン企業の対日進出支援などが主な仕事です。日本から来られる訪問者へ現地事情を説明するために、スウェーデン社会の成り立ちや現状を勉強している時に、男女平等がほぼ実現された社会や、とにかく元気に女性が活躍している姿などを身近に知る機会がありました。

赴任してまず、女性だけで構成される会に入って仲間づくりをしようと思ったのですが、日本と違ってそういう会は全く見つかりませんでした。反対に現地の人からは女性だけが集まって何をするのかと聞かれるありさまでした。「どんな場においても（多少の凸凹はあっても）男女半々の意見が必ず必要」という考え方が社会に浸透していることに気付かされた初めての経験でした。

今回「DUO」の紙面で「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」を皆さんと一緒に考える機会をいただきましたので、スウェーデンでの体験を交えて私の考える男女共同参画や「ワーク・ライフ・バランス」についてお話をしたいと思います。

2. 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）とは

「ワーク・ライフ・バランス」という言葉は最近では新聞や雑誌などで取り上げられる機会が増えています。「仕事と生活の調和」と訳されていますが、それが実現した社会とはどのような社会でしょうか。

実は平成19年に、政府や経済界・労働界・地方公共団体の代表等からなる「官民トップ会議」において、「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）憲章」が策定されています。この「憲章」では、仕事と生活の調和が実現した社会は、「国民一人ひとりがやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域社会などにおいても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できる社会」とされています。

言い直せば、男性も女性も、年齢に関わらず、「私生活を充実させることにより仕事もがんばれる」、「結婚、子育て、介護などのライフイベントに対応できる自由な働き方が、自分で選択できる」といった私生活と仕事の間にプラスの相乗効果を生み出すのがワーク・ライフ・バランスだといえます。

現状を見てみると、毎日残業、仕事に育児に家事にクタクタ、日曜日は疲れて何もする気がしない、自分のための自由な時間がほしい、と課題が山積みです。

「仕事」も「家庭や私生活」も充実させたいと願うのは欲張りやわがままではなくて、一度の人生をよりよく生きるために誰にとっても当たり前のことなのです。ワーク・ライフ・バランスは、働き方を含めて多様な生き方が選べ、実践できる社会を、男性と女性が力を合わせて実現していくための土台になるものといえます。

3. 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）はなぜ必要なのか

今日本が直面している課題の一つが「少子高齢化」です。2014年の日本の出生率は1・42ですがこれを2030年までに2・07に上げないと、今から50年後には人口1億人が維持できなくなると言われています。また65歳以上高齢人口の15～64歳の現役人口に対する比率は、現在は44％ですが、2050年には75％（働き手1・3人で高齢者1人を扶養）になると予想されています。（国立社会保障・人口問題研究所データより）。

この人口構成の変化によって生じる労働力人口の減少、年金財源の確保が喫緊の問題として挙げられます。出生率の向上と新たな年金の担い手の増加に全力で取り組まなければならなくなったのです。また団塊ジュニア世代の働き方が、両親の介護のため短時間勤務や離職に繋がるなど大きく変わることも予想されます。女性が子育てをしながら安心して仕事を継続できる環境整備（いわゆるM字カーブの解消）、家事・子育てを男性も共に担うという意識作り、長時間労働を前提としない働き方など、仕事と生活の調和を取りながら働く取り組みは、個人にとってもまた日本全体にとってもますます重要となり、避けては通れないものとなっています。

4. 諸外国の事例紹介（スウェーデン）

朝の出勤時と夕方の帰宅時にはストックホルムの街はベビーカーを押す人であふれます。押している人は母親だけではなく父親も同じ数くらいいます。私が赴任した2008年のスウェーデンの出生率は1・91、日本は1・37。この数字の違いがよくわかる光景でした。

スウェーデンでは1960年代、人口が少ないため女性も重要な労働力と考えられ、これまで大家族を支えてきた女性の社会進出が促され、国は仕事と育児の両立を可能にする支援制度を次々に整備していきました。70年代以降、保育施設の整備が活発に行われ、女性の頑張りもあって社会進出が高まりました。仕事も育児も男女平等といわれる現状になるまでには長い年月をかけての取り組みがあったのです。女性の活躍が謳われる反面、待機児童の問題さえまだ解消されていない日本が参考にしたい点です。

当地では所定時間内で仕事を終えることが当たり前になっているので、よほどのことがない限り働いている人は男女ともに定時に（5時から6時くらい）職場を離れ、子供を迎えに行き、家族で団欒を囲みます。仕事がらみの会合が夜にあることはまずありません。最初私も夕方5時5分には、事務所の中に所長の私だけが残っている状態に違和感がありました。けれどもやがて、女性の就業率が80％を超え、いわゆる専業主婦が2％の社会では、男女が共に仕事に、子育てに、家庭にと同等の関わりを持って生活をしていくためには長時間労働をしないということが必要不可欠だということが理解出来ました。

「残業なし」の働き方でも*「1人当たりのGDP」は日本を抜いて世界7位（日本27位、2014年）です。

2015年10月に来日したスウェーデンのオーサ・レグネール児童・高齢者・男女平等相の「男女が働き経済成長を支えるには、家事や育児など無償労働を男女双方が担えるよう社会を変えなければならない。（伝統的でない）新たな性別役割を受け入れることは、経済の面からも理にかなう」という意見を新聞紙上（2015年10月28日日経新聞「育児に悩む父親たち」）で読み、まさに日本も同じような取り組みと意識の改革が必要と思ったことです。

＊GDP（国内総生産）を人口で割ったもので、「国民の豊かさ」を表す。

5. 市民（若者など）にむけた今後の提案について

2015年10月9日～11日、倉敷市民会館などをメーン会場として「日本女性会議2015倉敷」が開催され、私はその実行委員長を務めました。1984年から毎年開かれる日本女性会議は、男女共同参画のイベントでは日本最大級のもので、今回の倉敷大会には全国から2千100人もの男女の参加者がありました。

この会議のテーマである「男女共同参画」ってなあにというご質問をよく受けます。「男女が生まれてきた性別にかかわらず、もって生まれた個性やその能力が発揮できる社会を目指して男女ともに頑張ろう」ということだと思います。男だからする、女だからしなければならない、といった固定的な役割分担はもう捨てて、家事も育児も介護もその時に出来る人がする、自分の意志で行うことがごく自然だという男女平等の社会といってもいいかもしれません。ワーク・ライフ・バランスはそういう社会になるための土台になるものです。

しかしながら、男女共同参画社会やワーク・ライフ・バランスは待っていても自然に実現するものではありません。男女ともにこれまでの考え方や意識を少し変えて、とにかく自分がしたいと思うこと、こうあってほしいと思うことを、まずは自分が行うことが求められています。

そして、その根底に「他人への思いやり」や「お互い様」という気持ちがなければ、どんなに素晴らしい政策や取り組みができても、真に働きやすい、生きやすい社会の実現は難しいということを、男性も女性も忘れないでほしいと思います。

指定都市市長会シンポジウム IN 岡山

『ワーク・ライフ・バランスの実現で地方創生へ ～広げよう！ 働き方改革～』

主催：指定都市市長会※
共催：岡山市
日時：平成27年11月16日（月）
13:30 ～16:00
会場：岡山コンベンションセンター
イベントホール

※ 指定都市市長会とは
指定都市が、行政課題や住民ニーズを踏まえた効果的な行政サービスを行うため、地方分権計画の推進や新たな大都市制度の創設に関する調査、国等への提案を行っています。

［基調講演］ 大塚 万紀子氏

結果を出して定時で帰るチーム術 ～秘訣はワーク・ライフ・バランス～

講師：大塚 万紀子 氏
（株）ワーク・ライフバランス
パートナーコンサルタント

今の状況は、人口オーナス期（働く人よりも支えられる人のほうが多くなるといった状況を指す）であり、これから先は、本当に限られた人たちを、いかに有効に能力活用していくか、人口オーナス期のルールにのっとった経営を進めていくことが求められています。つまり、①知的労働の割合が増えたことと労働力不足があいまってなるべく男女共に働くこと ②人件費の高騰によりコスト増であることや、介護と仕事の両立を迫られる40代男性が増加することから、なるべく短時間で高い成果を出す働き方に変えること ③多様化する市場のニーズにあわせて、なるべく多様な人材を自社にそろえることなどです。

経営者としては、育児、介護、難病、障害などが労働する上での障壁にならないように環境づくりを進めていくことがとても重要です。時間制約があることが一般的であると頭を切り替えること。それでも成果が上がる仕事の進め方とはどのようなものかを一社一社、自分の会社に合った形で考えを進めていくことが大変重要です。現在の仕事の進め方を徹底的に見直していくということが求められています。経営戦略上、ワーク・ライフ・バランスは欠かせない、ということを心得て、チームワークやチームプレーで乗り越えていけるチームづくりを意識し、自分一人で仕事を抱え込むというスタイルから脱却し、オープンマインドでみんなで仕事を分け合っていく、共有化していくというやり方に変えていくことが必要です。

また、ワーク・ライフ・バランスを地方創生、地方の再活性化に使っていけないかということで、今、多くの自治体と活動を進めています。

［パネルディスカッション］

隗より始めよ！ 働き方改革

（敬称略）

■コーディネーター　阿部 宏史
［岡山大学理事（企画・総務担当）・副学長、ダイバーシティ推進本部長］
WLBの推進や子育て支援と同時に、2023年までに女性の研究者比率25％を目指す岡山大学の取り組みを紹介。

■パネリスト　※五十音順
○岡崎 双一（イオン株式会社執行役、イオンリテール株式会社代表取締役社長）
日本一女性が働きやすく、活躍できる会社になるために、数値目標として、女性の管理職比率を2020年に50％を目指す。
○北橋 健治（北九州市長）
「イクボス」を自ら宣言した。中小企業の皆さんにも、働きやすい職場づくりに理解を得られるように粘り強く取り組みたい。
○林 文子（横浜市長）
2020年までに課長級以上に占める女性の割合を30％にする目標を設定した。
○大森 雅夫（岡山市長）
ワーク・ライフ・バランスによる働き方の改革を加速するために、政令指定都市全体での取り組みを打ち出すことを検討している。

□ まとめ（阿部 宏史）
ワーク・ライフ・バランスによる働き方の改革を考える上では、マネジメント層からの取り組みと同時に、一人一人の意識改革が重要であることを痛感した。
地域に密着した行政や企業の側から率先して取り組み、地域に対してモデルを示すことで、地域の他の企業や市民を巻き込んだ形で活動を展開していく必要があるのではないだろうか。

コーディネーター：阿部 宏史氏
岡山大学理事（企画・総務担当）・副学長、ダイバーシティ推進本部長

シンポジウムに寄せて

編集委員の感想と思い

市民公募の編集委員と一緒に作る「DUO」。シンポジウムに寄せて、編集委員の感想や思いをレポートしていただきました。

WLBの大切さを実感

少子高齢社会を迎え、WLB（ワーク・ライフ・バランス）の実践がいかに大切であるか、改めて実感した。イオングループの岡崎双一氏の働き方改革での報告が、参加者から大きく脚光を浴びた。「多様な人材が活躍できる企業を実現し女性管理職を50％に。そして百億円を投資し作業量を三分の一に減量する」――。

イオンは「イクボス企業同盟」にも加盟している。しかし、地方ではWLBを意識している企業はまだ僅かである。各首長から企業経営者にいかに理解を求めていくか腐心の様子が伺えた。その中で北九州市の北橋健治市長は「まず隗より始めよ。課長級以上の全職員にイクボス宣言に署名してもらい、成績は賞与に反映させている」と、並並ならぬ決意を語り、とても印象深かった。

WLBの実践に向けて企業、市民にどう浸透させていくか、重要な時期に差し掛かっていると強く感じた。（藤田）

わたしのワークライフ

結婚して24年、『妻は夫を支えるもの』『家族はいつも一緒にいるもの』の神話を信じて、短いスパンで夫の会社から出される辞令のままに、何度も転勤による引っ越しをこなしてきた。そのたびに、私は、職場を変え、いつまた退職になるかわからないので、自分の都合は言えず、職場の都合に合わせて新人と同じ時給のパートタイムで働いてきた。

そして、めまぐるしく変わる環境の中、柔軟性のある生き方は手に入れることはできたが、もしこの期間、自分の望む同じ職場で働き続けていればキャリアを評価され、それに見合った給料も得ることもできたはずだった。

若い女性たちが男性の犠牲になることなく、共に輝きながら、働き、生きることのできる社会を期待する。（大谷）

地域による格差に気づいて

人口のボーナス期とオーナス期という考え方を通して、これからの社会の有り様について何がヒントを頂いたように思えました。

他国との比較だけでなく日本は地域によってあらゆる格差がある国だと思います。今回の岡山市長のお話にもありましたが、東京と岡山を比較しても、岡山は東京よりも労働生産性が低いことは明らかだそうです。

本社機能を持ち、より高い教育を受けた層が集まりやすい地域とそうでない地域との比較というのは難しい部分はあるかもしれませんが、東京よりも岡山は保守的で未だに男女の伝統的な性差を重視する文化は強いと思います。

労働生産性を上げるためにも、そういった文化は岡山の発展を妨げると思いました。（吉田）

父親の育児参加の必要性

すぐに社会環境を変えることは出来ないと思う。平均寿命が延び、「人口減が地方では進み、若者が減っている現在、男女共に働き、日本を支えていくことを意識することが大切。そのためには、幼い時から、男女共に衣食住に関する技能や知識を身につけるための教育などをする。父親が育児にかかわる社会を作り、「働き方が変われば、生き方や社会も変わる。」

育児休業を取得しても、職場の理解を得られず苦労する人も多いと思う。父親の育児参加の必要性だけではなく、育児の魅力を感じてもらうことが必要だと思う。

自分の周りに、本当に困った時に、手伝ってくれたり、助けてくれたりする人を多く作っておく。そのために、近所付き合いや地域の活動にも顔を出しておく必要がある。（大口）

目指せ！　多様性

支える世代の人口が、どんどん減る一方です。こうした厳しい現実を目の前に突きつけられて、かなりショックを受けました。真剣にこの現実に立ち向かい、乗り越えていかなければなりません。

私、歴史と音楽が趣味ですが、安定が長く続いた時代は、「四角い箱に丸いふた」。つまり、寛容で風通しの良いシステムだそうです。また、意外と耳慣れない音楽が、心に響いたりするものです。

一人一人の違いを受け入れるのは、面倒で不安定で…と確かに簡単ではありません。でも「危機の時」は、容赦なくヒタヒタと間近に迫っています。変えていくしかありません。

一人一人の違った働き方を認められる環境は、きっと、機械的に割り切った従来の職場より、人間味が戻ってくると信じています。（新井）

自分づくりは
表町から始まる

岡山市男女共同参画社会推進センター

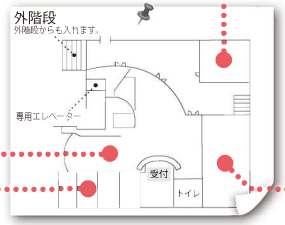
さんかく岡山ってどんなところ？

さんかく岡山は、表町三丁目の新西大寺町商店街の中にあり、男女共同参画に関する啓発講座や
図書の貸し出し、団体・グループへの部屋の貸し出し等を行っています。

さんかく岡山は
２階にあります。

図書コーナー

話題の本や専門書、資料などを貸し出しています。1回5冊まで、貸出期間は2週間です。



託児室

生後3ヶ月～就学前のお子さんを３時間までお預かりします。（有料・予約制）

ミーティングルーム

３人以上のグループで３時間まで利用可能です。（無料・予約制）PTA役員の打ち合わせやグループでの自主学習等に使えます。

会議室

最大100人の講演等が可能です。（有料・予約制）さんかく岡山が主催する講座のほとんどをこの会議室で行っています。

空き状況や料金等、詳細は、下記連絡先までお問い合わせください。

★さんかく岡山の事業等の詳細は下記ホームページをご覧ください
http://www.city.okayama.jp/shimin/danjo/danjo_00050.html

住所　〒700-0822
岡山市北区表町三丁目 14-1-201 号（アークスクエア表町２階）

電話　086-803-3355　FAX　086-803-3344

E-mail　sankaku@city.okayama.jp

開館時間　月・水～土　9：30～20：00
日・祝　9：30～17：00

休館日　火曜日、年末年始（火曜日が祝日の場合開館し、翌平日が休館となります）

※専用駐車場がないため、車でお越しの方は近隣の民間駐車場（有料）をご利用ください。

岡山市男女共同参画相談支援センター
（配偶者暴力相談支援センター）

相談ほっとライン　☎ 086－803－3366

相談受付時間　月・水～土　10：00～19：30
日・祝　10：00～16：30

休館日　さんかく岡山と同じ

「こんなことで相談していいの？」というときにも、電話してみてください。女性の相談員が丁寧にお話をお聞きします。

◆こんなときにはご相談ください◆
- 夫（妻）、パートナーから暴力（DV）を受けている
- 地域や職場、学校等での人間関係に悩んでいる（セクハラ等）
- 夫婦や家族関係のことで悩んでいる
- 心や身体、性について悩んでいる　等々

緊急一時保護を行っています。
緊急の場合は、受付時間にかかわらず、相談ほっとラインへお電話ください。

告知

さんかくウイーク 2016

テーマ「さんかく社会　笑顔あつめて　花ひらく」

岡山市男女共同参画推進週間（さんかくウイーク）は、男女共同参画社会の実現に向け、市民のみなさんに男女共同参画社会及び女性が輝くまちづくりへの理解を深めていただくために、6月21日から27日のさんかくウイークと、その前後一週間（プレウイーク・フォローウイーク）に、さまざまなイベントを行います。

プレウイーク　さんかくウイーク 6月21日から27日　フォローウイーク

6/5（日）オープニングイベント　6/26（日）記念イベント

詳しくは、平成２８年５月に、女性が輝くまちづくり推進課ホームページやさんかく岡山、公民館などにチラシを配布してお知らせします。

報告

さんかくウイーク 2015

テーマ「ひとが輝く　まちが輝く　さんかく社会」

6/21（日）　記念イベント／市民文化ホール

講演：一人ひとりが輝くために
～職場・家庭・地域　さまざまな場面で、今私にできること～

講師：住田裕子（すみた ひろこ）さん（弁護士）

子どもの自分から見た母の生き方、岐路に立って感じたこと、検事時代からこれまでのさまざまな体験を通して味わった女性ならではの葛藤も、ざっくばらんにお話しくださいました。

最優秀イラスト
テーマに沿って描かれた本城 実芙由さんの作品です。

男女共同参画社会の形成の促進に関する事業者表彰

岡山市は雇用の分野における男女共同参画の形成の促進を図るために、積極的な取り組みを行っている事業者を表彰しています。

表彰　平成２７年度受賞事業者のご紹介
株式会社 アイスライン　（代表取締役　石井 希典氏）

学校行事への参加など子育てに関する休暇の取得促進や、保育園の送迎に配慮した出勤時間の調整、育児休業後の円滑な職場復帰に向けた、一人ひとりの状況に応じたきめ細やかな対応など、仕事と子育ての両立を支援する取組みを行っておられます。
また、女性の視点や意見を取り入れ、商品開発や業務改善に活かすとともに、働きやすい職場環境づくりに努めておられます。
仕事と子育ての両立を支援するとともに、女性社員が働きやすい職場環境づくりを進めていることを高く評価しました。

さんかくウイーク 2015 実行委員会やさんかく岡山登録団体が企画した数々のイベントを開催したり市内のすべての公民館で講座を行いました。

6/7（日）　オープニングイベント
仕事や子育てに活かしたい
アンガーマネジメント

6/14（日）　市民協働事業
介護を誰に託しますか
～ジェンダーの視点から～

6/14（日）～7/4（土）　公民館事業（東山公民館）
小学生のさんかく標語展 2015
～ひとが輝く　まちが輝く　さんかく社会～

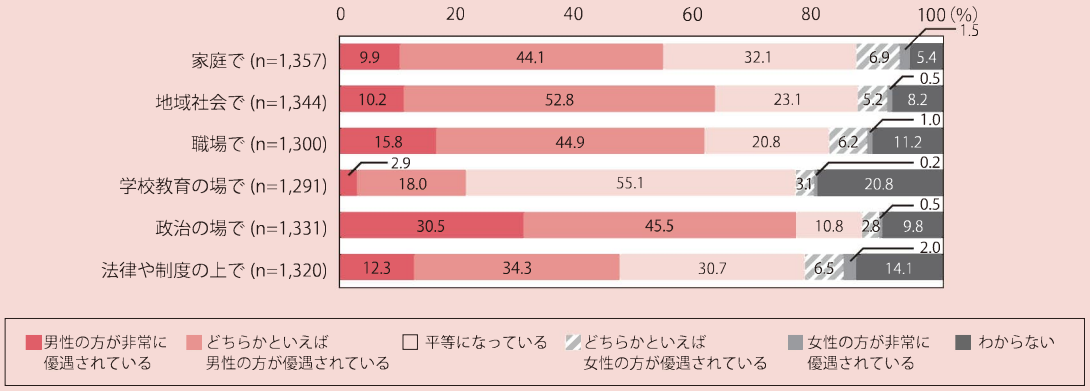
2016.3
DUO
Vol.41
男女共同参画社会の実現をめざす情報誌
DUO デュオ 第41号

男女共同参画に関する市民意識・実態調査について

この調査は、岡山市内にお住まいの20歳以上の方の中から、3,000人を対象に調査いたしました。男女共同参画社会や女性が輝くまちづくり、DV（ドメスティック・バイオレンス）に対する考えやご意見、実情を幅広くお伺いし、今後の施策を検討するうえでの基礎的な資料とさせていただくことを目的としています。（回答：1,409 人、47.0%）

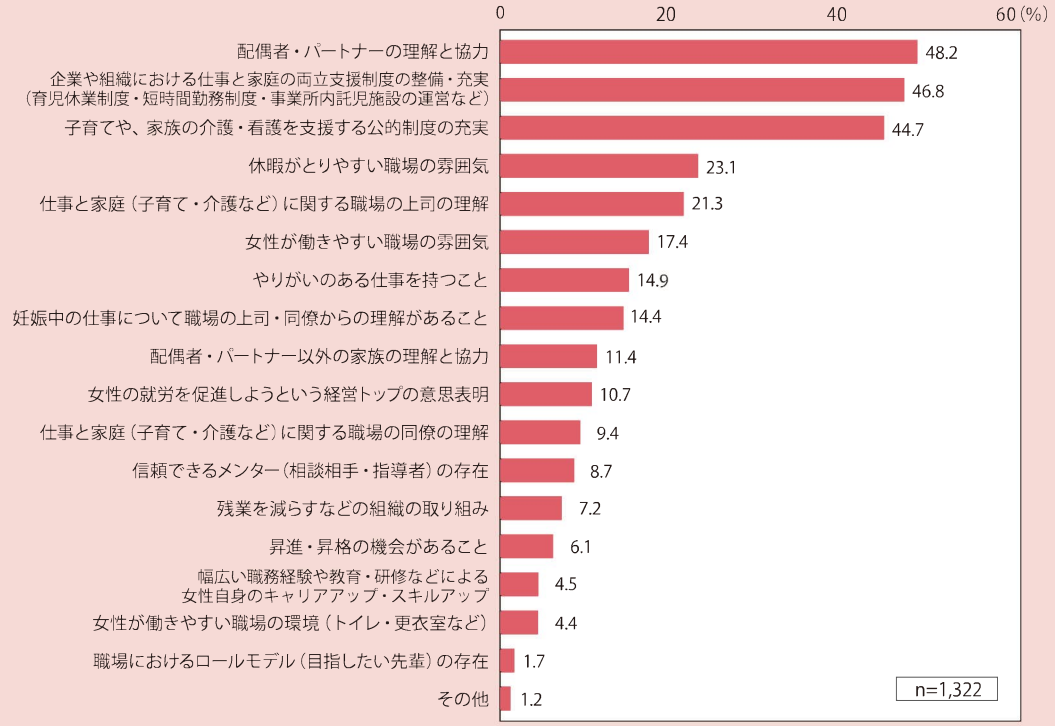
男女の地位の平等について

【問】あなたは、次の分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。



女性が働き続けるために必要なこと

【問】女性が企業や組織で働き続けるために、何が必要だと思いますか。



※ アンケート結果の詳細につきましては、平成28年３月下旬に
岡山市女性が輝くまちづくり推進課のホームページに掲載予定です。

http://www.city.okayama.jp/shimin/danjo/index.html

この情報誌は、岡山市と市民公募の編集委員が協働で企画・編集を行いました。

発行／岡山市市民協働局女性が輝くまちづくり推進課
〒700-8544 岡山市北区大供一丁目1番1号 ☎086（803）1115
http://www.city.okayama.jp/shimin/danjo/index.html